

今日の説教のポイント<使徒言行録 26 章 1~18 節

①今も通じるフェストゥスの正しい判断 宗教団体とこの世の法

宗教がらみの事件が時々起こります。この世の法との関係で宗教団体はどうあるべきなのでしょう。フェストゥスは25章18~19節で、パウロが訴えられている問題は信仰者間の問題で世の法が介入すべきではないと判断を下しています。これは今の時代の法にも適用されている正しい判断です。しかし、それが正しく機能するためには、その宗教団体が真っ当な法制度を持っている必要があります。日本キリスト教会が「日本キリスト教会憲法規則」を作り、各個教会がそれを守ってカルト的な群れにならないようにしているのはそのためです。

②パウロが気づかされたこと その1

人間は、精一杯正しく生きようとしていればいいのではない！

私は信仰に入る前、「人前に恥ずかしくないように正しく生きようと励めばそれでいいのだ」と思っていました。パウロは、さらに、聖書の神様を知る者としてその神様の前に恥ずかしくないように生きようと努めていた人でした。しかし、私も、それ以上にパウロすらも、それでいいのではないことを知らされたのです。なぜか？ 理由は簡単です。真の神様がおられ、その神様がそれでいいとは思われていないことを知らされたからです。「パウロは、キリスト者を追い回したことに後ろめたさを覚えて<改心>したのだ」と考える人がいますが、パウロの場合は、そんな人間の内面の問題（心理学的問題）で行き詰って神を求めたのではないのです。現れられた復活の主イエスの存在に圧倒され、その神様に捕えられ、<回心>したのです！

③パウロが気づかされたこと その2

真の神様が、このようなことをなされたのだ！

それでは、私たちもそのような特別の経験をしないとだめなのでしょう。違います。神様は、パウロだけに特別な出来事を起こされました。それは彼を特別な伝道者として用いるためでした(9:15-16)。ですから、私たちはその彼の話を聞き、神様の福音を受け入れることが大事なのです。それでいいのです。それが神様が私たちに用意して下さった信仰への道なのですから(16-18節のパウロの発言に注目)。